

日経Kids+

PLUS

[キッズプラス]

親子の時間に
笑い声をプラス
なるほど!をプラス
安心をプラス

6

2007 June No.19

子どもが伸びる
幼稚園・保育園
自然素材でアートを作る



私立中 vs 公立中、学べることを徹底比較
私立で伸びる子、公立で伸びる子
いい小学校の見分け方

子どもの将来が輝く 最高の学校

定価550円

特別付録
外遊び&お風呂遊び
DVD



【明福寺ルンビニー学園】

東京都江戸川区江戸川3-8

☎03-3670-0134

1952年に保育園が開園し、13年後に幼稚園が併設される。福祉と教育が一体となった施設として長い歴史がある。幼稚園の場合、入園料が11万円、月の保育料は3歳児で3万1000円(江戸川区内在住者に入園料・保育料の補助あり。給食費・絵本代、PTA会費などは別途必要)。

言葉、数、芸術を積極的に園児に教えているのは、東京都江戸川区の明福寺ルンビニー学園幼稚園・保育園。福井豊信園長は、「今の子どもたちは、乳幼児期から音や映像による大量の情報にさらされています。それらの整理の仕方を教えなければ、混沌とした世界に迷い込んでしまって」と危惧する。

入学前の教育は「いろいろ」と言われながらも、小学校に入れば、国語も算数も駆け足で課題をこなさなければならない。知識を詰め込むだけでは精いっぱいだ。それならば、幼児の時代から本質に触れさせ、幼い心に豊かな世界を広げようと考えた。例えば、美しい花が目に入つても、それを言葉にしなければ頭の中を通り過ぎていくだけだが、「きれいだね」のひと言で、ほんやりとした感情が整理される。言葉がイメージに輪郭を与え、記憶に残り、感受性を広げていく。言葉も数も芸術も、

物事や感情を整理する方法として子どもたちに伝えている。

数学者の銀林浩さんに数教育の監修を依頼し、ブロックや積み木、片付けや給食の配膳などを通して、集合や一対一対応の概念を理解させる。芸術面では彫刻家や音大教授を講師として招き、作品作りやコーラス、合唱の発表などで成果を形にする。暗記や計算など受験向けの勉強はしないが、幼稚園からは毎年1割ほどのおどもが私立小学校へ進学していく。

働く親への福祉を主な目的に設けられている保育園でも、幼稚園と同様の教育を行い、知に触れる機会を平等に与える。目指すのは、感情豊かで論理的思考ができるおどもたちだ。

POINT 1

幼稚園児と保育園児が一緒に遊ぶ

コミュニケーションに必要な手段として、言葉を重視する。絵本を通じて年少から文字に慣れ親しませていき、年長になると手紙を書かせ、自分の気持ちや考えを文章で表せるようにする。



明福寺ルンビニー学園園長
福井豊信さん

1971年のフランス教育研修で幼児期における数の教育の実践を見て、その必要性を痛感。論理的な思考を養う数の教育と音楽、アートを保育に取り入れ、子どもたちの情操を育てる。



POINT 3

POINT 2 数学に強い頭をつくり
論理的思考を身に付ける

1つとは何?多い、少ないとは何?何番目とは?といった数学の概念を身に付ける。遊びながら数に触れ、頭の中を整理する方法を学ぶ。数学は論理的思考を鍛え、理知的な人間をつくると考えている。